



発足当初は、生活改善に取り組み、その後、消費生活、環境、福祉、青少年健全育成、自主防災強化策等、その時代、地域の問題をとらえ、学習し、実践活動をとし、行政とパートナーシップをとりながら地域活動に貢献すること、女性の地位向上に努めてきました。現在は、51市町村の女性団体や賛助会員等で構成され、会員数約6万人の組織となっています。

平成8年度には調査事業で会員のうち300人を対象にアンケート調査を行い、組織・活動の在り方を見直し、今後の女性団体の発展につなげることにしました。また、50周年記念事業として海外研修を行い先進国の福祉・環境・女性の社会参画等について学びました。今後、その成果を地域活動に生かして行きたいと考えています。

地域サポート事業

Q 現在、力をいれていらつしやる事業があれば、お話しいただけますか。

A 地域社会では、高齢化が進み、就業女性が増加していることから、六つの地域において地域サポート事業を行っています。

これは、今まで培ってきたことを地域の活動に役立てるといふ目的で、子どもを預かったり、高齢者などの病院への送迎等のお手伝いをする事業で、地域でも大変喜ばれています。ボランティアでは長続きしにくいこと、サポートを受ける側もお金を支払う方が気が楽であることから、ある程度のお金を頂いて行っています。

また、女性の地域リーダー養成事業、女性団体活動の充実強化事業、省エネルギー教室開催事業といった、県からの委託事業も行っています。



活動の歴史を踏まえ、これからの抱負を語る高木会長

ています。会が、単独で行うのが困難な事業の中にはありますので、会の内外を問わず、良きパートナーを得て事業を積極的に進めていきたいと思います。

よりよい人間関係を目指して

Q これからの県地女連の取り組みについてお伺いします。

A 会の運営に当たって、会員相互がよりよい人間関係を築くために、人を思いやり、相手を尊重することの大切さを実感しています。

現在、会では、もっと若い世代の人が入りやすいように検討委員会を作り、会費、規約等を含め、組織の見直しを行っています。これまでの活動も、これからの活動も、地域の課題と時代の要請にこたえる活動をしていくことに変わりありません。先人の事業をすばらしいと高く評価しながら、今後の活動に向け組織の充実を図っていきたくと考えています。

女性議会

— 市民と行政の素敵なパートナーシップ —

昨年10月4日、参議院50周年を記念して「女性国会」が開かれました。県内でも静岡市に市民と行政の確かなパートナーシップを築いている「女性議会」があります。今回、本年度議長を務めた「しずおか女性の会」会長の守屋秀子さんと実行委員長の杉山佳代子さんに「女性議会」についてのお話を伺いました。

しずおか女性の会

女性議会誕生

静岡市では1984年女性団体の実態調査や女性に関する意識調査が行われました。ま

た、1985年には、女性団体の代表者を集め、情報交換会が行われました。これをきっかけに、静岡市の女性団体（当時37団体）が

PARTNERSHIP



議長席の守屋会長



議長席での市長の答弁

ネットワークを図り、女性の視点を生かした「まちづくり」をしていこうと発足したのが「しずおか女性の会」です。翌1986年からこの会が中心となり、市長との懇談会が1991年まで続けられてきました。しかし、「語るう会のままでは、言いたいことを言うだけでその場限りで終わってしまう。何とか、女性の声を政策に反映させたい」こうした会員の願いが市にも届き、1993年市長との市政懇談会として、議会形式をもった「第1回女性議会」が開催されました。

第5回目を迎えた本年度は、昨年11月6日に静岡市議会の議場で開かれ、市議会の本会議さながら会員の代表5人が「質問」に立ち、市長及び部長が答弁にあたりました。会員の代表70人と市長をはじめとする市の幹部職員等が出席し、2時間にわたり熱心に論議しました。

価値ある提言へ

議会を開催するにあたり、女性の会も準備には余念がありませんでした。会員の意識を

高めるため、従来行っていた運営委員会方式を改め、昨年度からは実行委員会方式を取り入れました。特に、今年度は、12回の実行委員会をはじめ、セミナーの開催、市議会傍聴、女性行政担当者との意見交換会、フレッシュアップランしずおかに関するディスカッション、その他調査・研究、データの収集等多くの学習・実践を通し、その中から大切なことを文章化し提言に結びつける努力をしました。市もまた、提言を真摯に受けとめようと、市長をはじめ部長クラスが議会答弁の前に勉強会を開きます。こうして「女性議会」は単なる模擬議会ではなく、その意見は尊重されています。

パートナーシップ

女性議会は市当局と市民双方にとってメリットがあります。市民側にとって、「提言を市側もきちんと受け止めてくれる」また、市側も「女性団体の代表者の生の声が聞けるとともに、女性の視点での有益な意見が聞ける」



様々な苦勞を乗り越え、着実に活動を進め、自信を深める

と、お互いにこの議会に期待を寄せています。この議会での提言が、空缶ボーイ捨て禁止条例の検討に、また、草薙の野球場の分別用のごみ箱の設置、女性行政担当窓口の教育委員会から市長部局への移管等、直接的に市政に反映されるとともに、市長をはじめとし幹部職員の方たちにも女性問題の理解を深めていただくなどの波及効果もありました。

最後にお二人から「今後、女性議会を通してより充実した提言をしていきたい。私たち（市民）ができることは私たち（市民）がやり、行政だけでは成し遂げることが困難なことは、私たち（市民）が後押しするといったように、市民と行政がよきパートナーとして、車の両輪のごとく、支え合いながら、住み良いまちづくりに向け協力していきたい」と抱負を語っていただきました。

編集員のおすすめ本



『住みやすい町の条件』
小林和夫編
晶文社

おらがまちづくりの実践例

人が豊かに暮らすためには、欠かすことのできない「地域づくり」。
自然環境を守りながら豊かな景観を生かした町づくりに取り組み世田谷区から上野の奏楽堂などの建築物をはじめ歴史的・文化的遺産の確保に力を注ぐ台東区など11地区の町づくりの実践例。

地域差のある「おらがまち」づくりの楽しさ、大切さをふつふつと伝えてくれる、また、東京23区を旅しているようなそんな気にもさせるおもしろい本です。是非御一読を。(山梨)

夫婦でいることがおもしろくなる

フルタイム働きバチ、フルタイム教育ママなどという夫婦はいませんか。時間も心も一部は仕事に、一部は配偶者に、一部は自分の趣味、つき合いに・・・とすべてパートタイムにしてみましよう。お互いに一人の人間としての個というものがはっきり確立していれば、夫婦でいることがおもしろくなるのでは・・・。

長い夫婦生活、どうしたらいつまでもいい



『御夫婦しましょ！
“パートタイム夫婦”のすすめ』
岩男寿美子
フォー・ユー

夫婦関係を維持できるかを考え、また、今の夫婦の関係も見直す機会を与えてくれる一冊です。(三宅)

男女平等さの調査

夫が台所でお皿を洗い、育児を楽しそうにして、横で妻が会社の書類整理をしている。アメリカかっているいいな、男性が女性の社会進出に理解を示して、平等に暮らし、生かされた

生活が可能な国。今の今までそう信じていたのである。

カリフォルニア大学バークレー校社会学部助教授で3か月のこどもの母親だった筆者は、男女の不平等さに気付き、インタビュー調査を開始したのである。

男女の意識の差に驚きつつ進む姿は日本とあまり変わらない。(河合)



『セカンド・シフト』
アメリカ共働き革命のいま
アーリー・ホック
朝日新聞社

知っておきたいことば

NPO法案 ■特定非営利活動促進法案

NPO（民間非営利団体）の法人格の取得を容易にすることで活動を支援するのが目的
法人格を得ることで事務所の賃借契約、電話の加入契約、財産管理等を法人名義で行うことができるようになる。（参議院を通過し、今後衆議院で審議される）

JICA ■国際協力事業団

政府開発援助（ODA）のうち「二国間贈与」と呼ばれる無償資金協力と技術援助の多くを担当する特殊法人
発展途上国からの研修員の受入れ・専門家派遣・機材供与・開発調査・青年海外協力隊の派遣・開発協力などの事業を行う。



『はぎのはな』
編者 浜松女性史グループ
すずかけのき
発行 浜松市・女性施策課

女性の歴史をふりかえる

女性を取り巻く社会状況を検証しながら、時代の変遷に先輩の女性たちが、どう生きてきたかを女性の視点で調査研究し、まとめあげられたこの女性史は、長い歴史の中で形成されてきた女性問題を鮮明にし、その問題解決に向けて大きな手掛かりになります。題名にある萩は、浜松地方に古くから自生しており、可憐なイメージとは対比的に強い生命力を持ち、浜松の女性の過去・現在・未来の姿を象徴しているかのようによろこびます。(杉山)



若きリーダーに出会って

「取材する」側にまわることで、頭の中は半分パニック状態であった。趣旨に沿った質問が上手に展開されていくかしらと不安と緊張できつと顔が引きつっていたのではないかと思う程であった。

坂西バーンズさんは大きなバッグを肩にかけ、何の気負った素振りもなく、実に自然なスタイルで現れた。私とは親子程年齢差のある彼女なのにその落ち着いた様に、一瞬圧倒されてしまった。

こちらの問いかけに、ウーンとかエーッとかが

編集員のないうしよ話

編集後記

「言わず、迷いのない答え、考えが即かえって来ることに頼もしさを感じた。その上、素直で明るくリーダーと呼ぶにふさわしい人柄であったことが印象に残っている。」
(河倉)

取材先で励され得たもの

「パートナーシップ」という身近なようでいて、大変奥深いテーマにチャレンジできたことをとても嬉しく思います。

31号の清水町の取材では、自然が創り上げた「柿田川の湧水」とそれを守る人々に出会えたこと、そして大自然を守りながら、新しい事業にチャレンジしていく姿を拝見し、私自身励まされる思いで取材を終えました。

32号の県地女連会長に取材の後、ご苦勞話を伺ったところ、「長い間それはいろいろありましたが、やはり人間一番大切なことは、思いやり」ですよ。会の運営もパートナーシップを保つのも、お互いの思いやりがあればこそうまくゆくんです」とのお話にとっても重みを感じました私です。
(杉山)

人との出会い

夏の台風でどしゃぶりの日の取材。師走で何かと忙しい時期の取材。でもどの取材もいい出会いができ、私にとっていい刺激、パワーを与えてくれました。夏休み、クリスマスの編集会

議。家でビデオを見て留守番してくれた7歳の息子と4歳の娘に頭の下がる思いです。

編集というものは、本当にパートナーシップが大切だと痛感しました。ねっとわあく編集員の方々と出会えたことは、私にとって大きな収穫でした。その編集員の声、個性をもっと反映させ、県民と行政が協力してねっとわあくがよりよいものになるよう期待しております。1年間、私に協力して下さったすべての人にあらがとうございました。
(三宅)

私にとつての収穫

本の編集は初体験。31号は作業の流れを追いかけているうちに終わってしまい、32号は「よ


募集

「ねっとわあく」を読んで

ご意見、ご感想をおはがき、ファックス等でお寄せください。
宛先 静岡県女性総合センター

《表紙デザイン》静岡県デザインセンター 小杉思主世さん

《写真(3ページ)》静岡市小鹿 杉本 峰男さん



No.32

編集にあたり御協力をいただきました皆様に、心から感謝申し上げます。 <編集員一同>

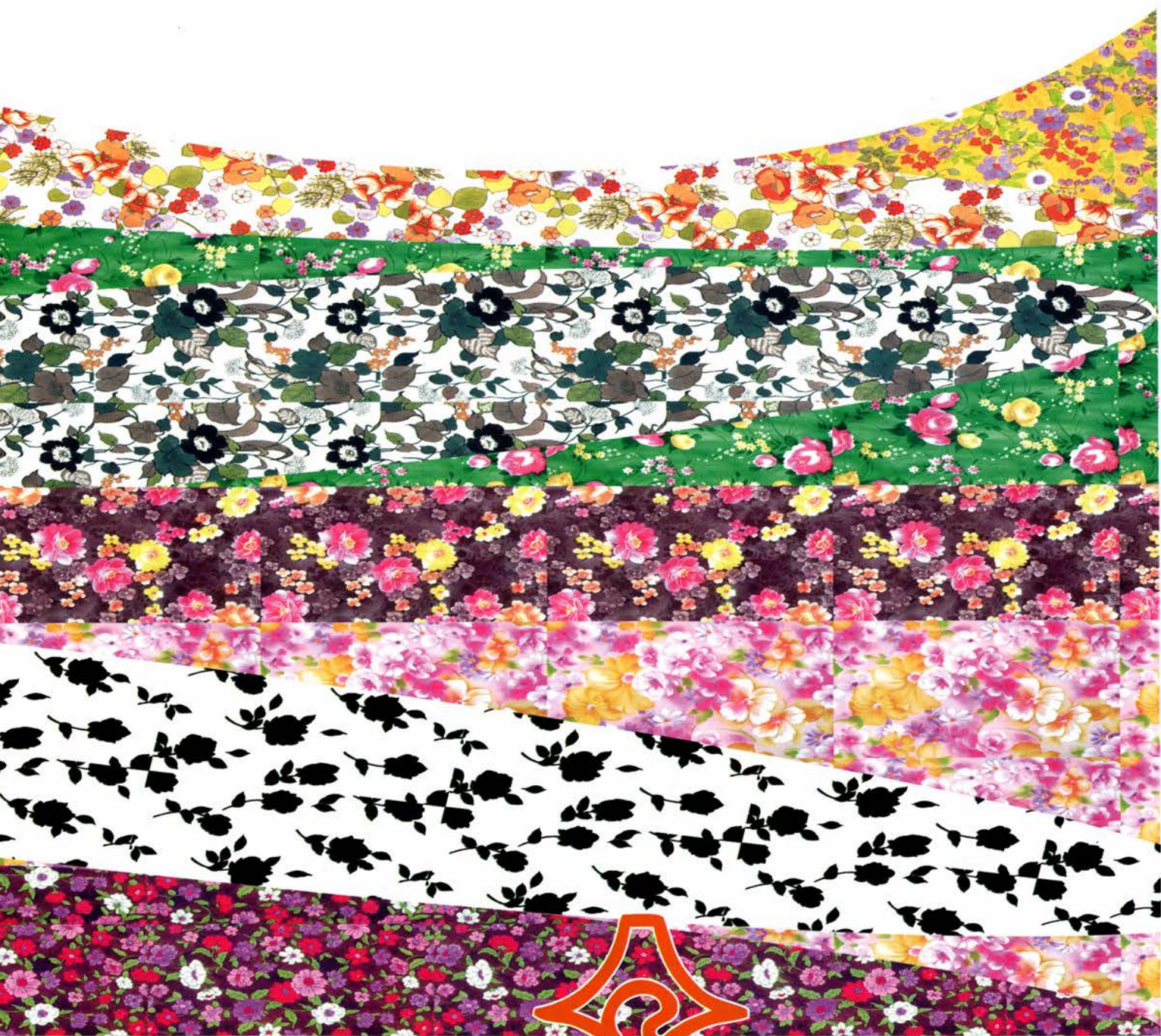
企画・編集

河倉登代子さん(静岡市)	杉山 恵子さん(浜松市)
三宅 元美さん(静岡市)	山梨 キイさん(清水市)
編集アドバイザー	
太田 榮三さん(熱海市)	

発行 平成10年3月
編集 静岡県女性総合センター
住所 〒422-8063 静岡市馬淵1丁目17-1
電話番号 054-250-8107

「ねっとわあく」編集係
〒422-8063 静岡市馬淵1丁目17-1
FAX 054-255-9266
メール azare@shizukanet.or.jp

し、少しは関わった意味を出したい」と思っているうちに終わってしまった。この心残りにはまたの機会に恵まれた時にぜひぶつけよう。編集作業は足手まといのうちに終わってしまったが、頑張っている、実践している多くの女性の方々に出会えたこと、そしてそのネットワークの確かさに触れられたことは大きなエネルギーを戴け、収穫！
27歳にしてすでに世界を股にかけ大活躍のバーンズさん。気負いのない仕事ぶりや家庭のお話を伺っていると、時の経つのも忘れ、「ああ女性もついにここまで前進できたか」と70年代に青春した私はしばし感無量。
(山梨)



静岡県

この冊子は再生紙を使用しています。